高遠町から見るアジア
―アジア主義者としての中村弥六―

千葉商科大学教授　趙軍

なぜ今さら「中村弥六」？

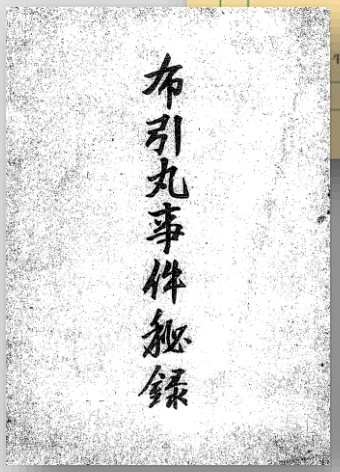
- **【国会図書館「近代日本人の肖像」の解説】**

「林学者。父は高遠藩儒官。明治3(1870)年大学南校に入学。ドイツ語教師、内務省勤務を経て、12年ドイツに留学し、林学を修める。帰国後、東京山林学校(後の東京大学林学科)教授、農商務省山林局技師などを務める。23年衆議院議員に当選(8回当選)し、森林関係法案の審査等に携わり、森林法の原形を作った。31年第1次大隈内閣の司法次官。32年林学博士。**東洋民族の統一を唱え、32年のフィリピン独立運動支援を目的とした武器密輸事件(未遂)「布引丸事件」にも関与した**。大正10(1921)年帝国林政研究会会長、昭和2(1927)年大日本山林会顧問。」
(https://www.ndl.go.jp/portrait/datas/447/)

- **【フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』**(2022/02/16 10:00 UTC 版)の解説】

「……1898年のフィリピン独立革命で**マリアノ・ポンセ**が支援を求めて訪日した際、日本軍から革命軍への武器払い下げ交渉に尽力した。しかし武器は輸送船「布引丸」の沈没によってフィリピンに届けることができず、残った武器を（フィリピン独立派の承認を得た上で）**宮崎滔天**が興中会による武装蜂起（恵州事件）に転用しようとした時、**中村が勝手に売り払い、かつ代金を着服したことが発覚し、多くの非難を浴びた。ただし中村自身は冤罪であることを訴えている。**」
(https://www.weblio.jp/wkpja/content/%E4%B8%AD%E6%9D%91%E5%BC%A5%E5%85%AD_%E4%B8%AD%E6%9D%91%E5%BC%A5%E5%85%AD%E3%81%AE%E6%A6%82%E8%A6%81)

政治家中村弥六の「ワーテルローの戦い」か
―「布引丸事件」―



- **「布引丸事件」の由来**

1898年6月、日本からの支援を得るため、**マリアノ=ポンセ**はアギナルドの密命を受けて来日。

ポンセは孫文→宮崎滔天・平山周→犬養毅らの紹介で、**中村弥六**に武器購入を依頼。

ドイツ人商人ワインベルゲルの名義で購入した弾薬は、1899年7月13日に門司に到着した老朽船**「布引丸」**に積込、19日長崎より出港、21日早朝、上海沖の洋上で沈没。せっかくの援助活動は挫折で終わってい待ったのである。

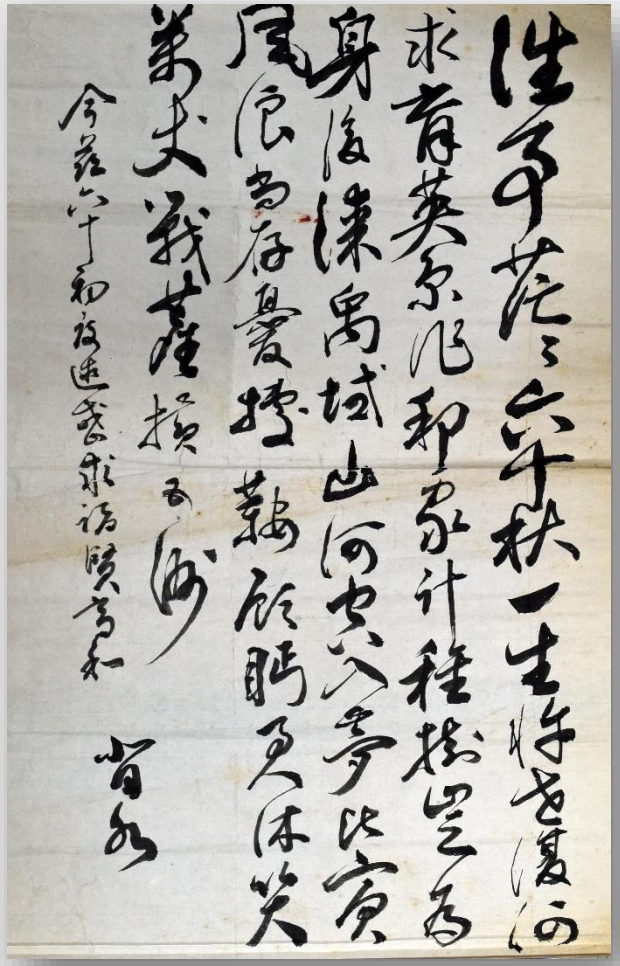
1900年10月、広東省恵州での革命軍蜂起を支援するため、孫文は宮崎滔天らに追加購入の弾薬武器(ポンセから譲渡された)を恵州へ急送するよう要請。しかし、大倉組の倉庫に保管されていた弾薬は廃物で実用に耐えられないことや、弾薬購入代金の食い違いなどは発覚。この話は「**背山事件**」として同志間の内輪もめを起こし、徐々にマスコミの話題や政界での攻撃に発展し、中村弥六の「ワーテルローの戦い」になり、政界での政治生命を絶った。

- **宮崎滔天の『三十三年の夢』での記述**

「夢迹追懐して来りて痛恨の情に絶へざるもの、実に菲島事件と恵州事件の二となす。而して菲島事件の事彼の如くにして破れ、恵州の事亦此の如くにして破る。想ふて茲に至れば、余は実に背山の肉を喰ひ血を啜(すす)るも猶ほ且つ嫌(あきた)らざらんとす。嗚呼豈に余のみならんや、志を同うし道を共にしたるものは皆然らん。況んや孫文本君に於てをや」

- **『三十三年の夢』**と**『布引丸事件秘録』**の記述に互に矛盾が多く、事件は、真相の解明がなされないまま「**闇から闇へ葬られた歴史上の隠れた事実**」となっている。

還暦を迎える際の人生回顧から窺えるもの



- 華甲之作
- **往事茫々六十秋、一生仵世復何求。**

（往事は茫々として六十年が過ぎた。生涯世俗と対抗しまた何かを求めようか。）

- **育英原作邦家計、種樹豈為身後謀。**

（英材を育てる目的は元来国家のためで、まさか自分の死後を謀るはずがあるまい。）

- **禹域山河空入夢、比賓風浪尚存憂。**

（中国の山河は夢に見るのも空しく、フィリピンの風雲に尚憂いを抱く。）

- **據鞍顧眄君休笑、萬丈戰塵横五洲。**

（壮志雲を凌ぐことに君嘲笑するな、戦塵万丈して五大洲を掃討しようと思う。）

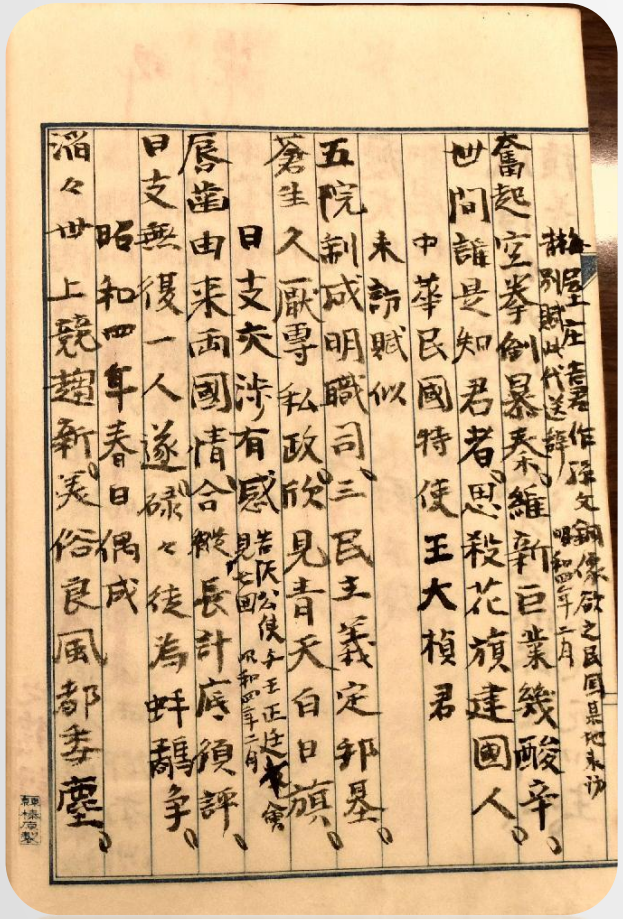
「グローカル」の好例：
―高遠からアジア・世界的視野を持つ人材が輩出した理由

- 「高遠は学問と教育の地として知られています。その歩みは江戸時代中ごろの**阪本天山**に発しています。」
- 阪本天山から始まった「**実学思想**」指向性の新しい儒学教育。「阪本天山（1745-1803）は、儒学を追求し、「真の学問は自分たちの生きる社会や政治とかかわり、これに役立つものでなければならない」と説きます。この実学思想は、多くの弟子たちに受け継がれました。」
- 続々と海外留学への原動力（**伊澤修二**の例）
- 中村弥六以外の中国革命運動との関連（**中村不折**がデザインした中華民国湖南実業銀行紙幣）

中村弥六の**アジア認識**と「**アジア主義**」

- 「余ハ比律賓ニ関シテ従来一片ノ抱負ヲ有セリ」
- 「「ポンセ」ノ来リ投シタルハ我ガ帝国他日ノ為メ天與ナルヲ喜ヒ胸中忽チ風雲ヲ起シ奮テ比島独軍ヲ援助スベキヲ諾約セリ。」
- 「明治二十七八年ノ役終ルヤ余ハ清国ノ末路ハ竟ニ列強ノ分割ヲ免カレサルヘク而其禍乱ハ朝鮮及暹羅ノ亡滅ニ端ヲ発スベク予想セリ」
- 「二十九年十月暹羅ニ渡航シ……帰朝ノ途次香港ニ於テ比島ノ志〔士〕ト語リ（マニラ領事々務代理三浦荒次郎ノ紹介ナリ惜哉志士ノ姓名ヲ忘却ス）当時西班牙政府ガ比島民ヲ虐待スル真相ヲ知リ同情ニ絶ヘズ速カニ独立ノ義旗ヲ飜シ西国ノ羈絆ヲ脱センコトヲ慫慂セリ」
- 「翁は亜細亜民族は互に固き団結を以て欧米支配力の侵入を防止し、亜細亜は亜細亜人の手で開発すべしとの意思を持って、先づ英佛が嘱望してる、暹羅国のチーク林の開発権獲得を企て、……」(漆山雅喜手記『故中村彌六翁追想記』より)

孫文の理念と中国革命への理解



- ①　梅屋庄吉君作孫文銅像、欲之民国某地、来訪告別、賦此代送辞、昭和四年二月

奮起空拳倒暴秦、維新巨業幾酸辛。

（徒手空拳を奮って暴虐な秦王朝を倒し、維新の大業を興すにはどれ程の辛酸を嘗めてきた？）

世間誰是知君者、思殺花旗建国人。

（世の中に君のことを最も理解できる者は誰か、あの合衆国を作った人だろうか。）

- ②　中華民国特使王大楨君来訪賦以

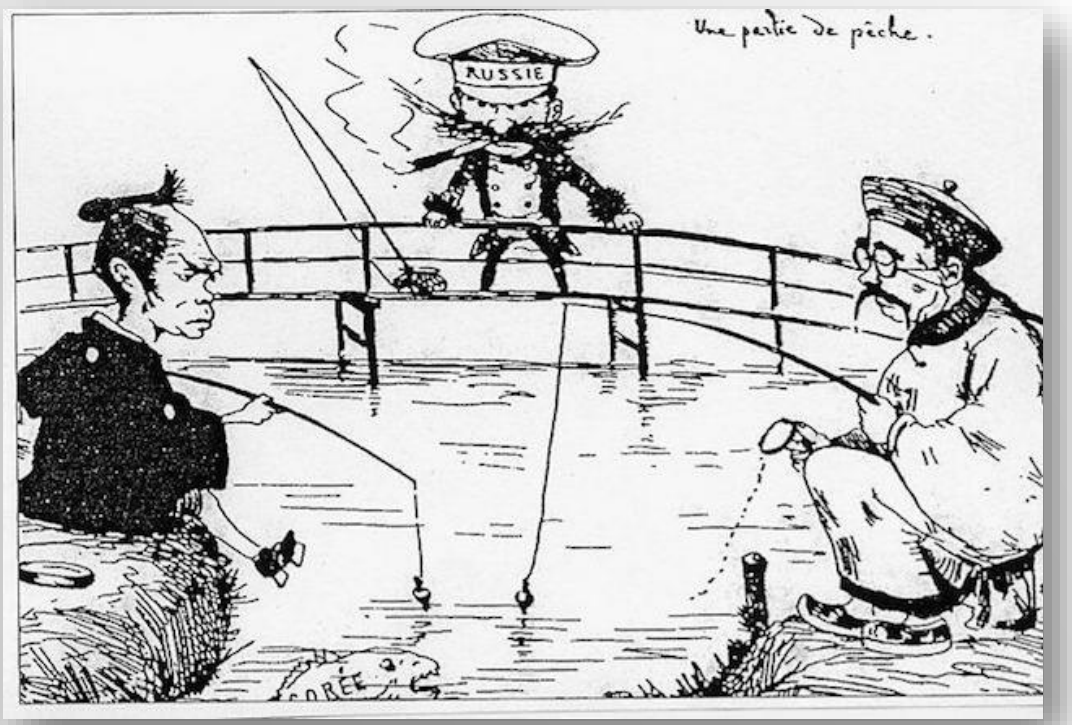
五院制成明職司、三民主義定邦基。

（五院制が成立し職掌も明定され、三民主義の基礎がこれで確立。）

蒼生久厭専私制、欣見青天白日旗。

（長らく皇帝専制に厭きた庶民は、青天白日旗を喜んで仰ぐ。）

日中関係の現状に対する失望と将来への期待



「意味解説ノート」(https://meaning.jp/posts/67)より引用

- 日支交渉有感、芳沢公使与王正廷□会見七回
  昭和四年二月

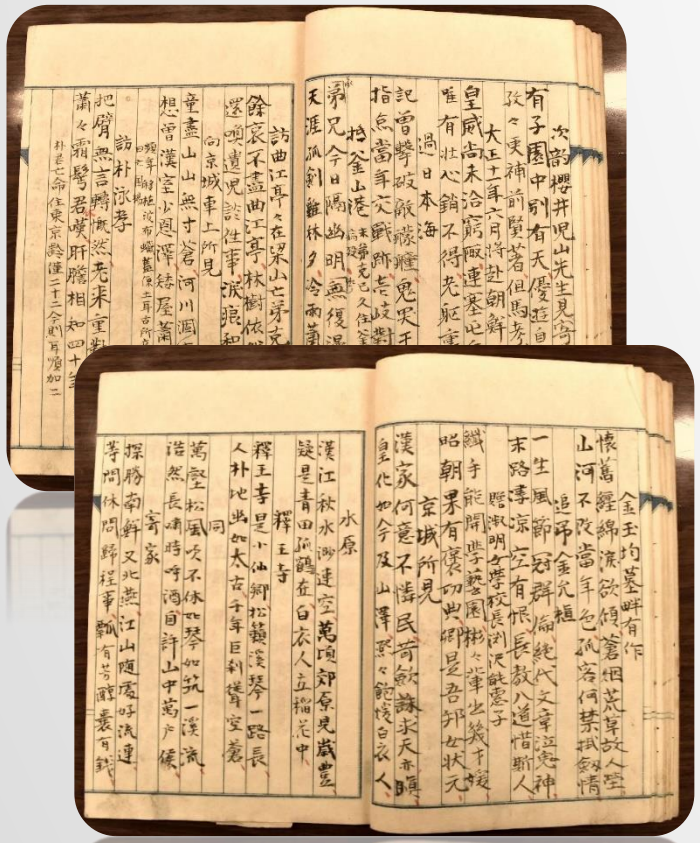
唇歯由来両国情、合縦長計底須評。

（唇歯如くの関係は昔から両国の感情であり、提携の大計も謀らざるを得ない。）

日支無復一人遂、碌々徒為蚌鷸争。

（日中両国は今誰も目的を遂げず、徒に鷸蚌(いっぽう)の争いに走って居る。）

朝鮮独立運動への共鳴と同情



- ①訪朴永孝
- **把臂無言轉慨然、老来重對酒樽前。**

（腕を掴まえ無言のまま慨然し、年老いて再び酒樽の前へ。）

- **蕭々霜髪君休嘆、肝胆相知四十年。**

（鬢の毛が蕭々として白くて君が嘆き、肝胆相知り四十年。）

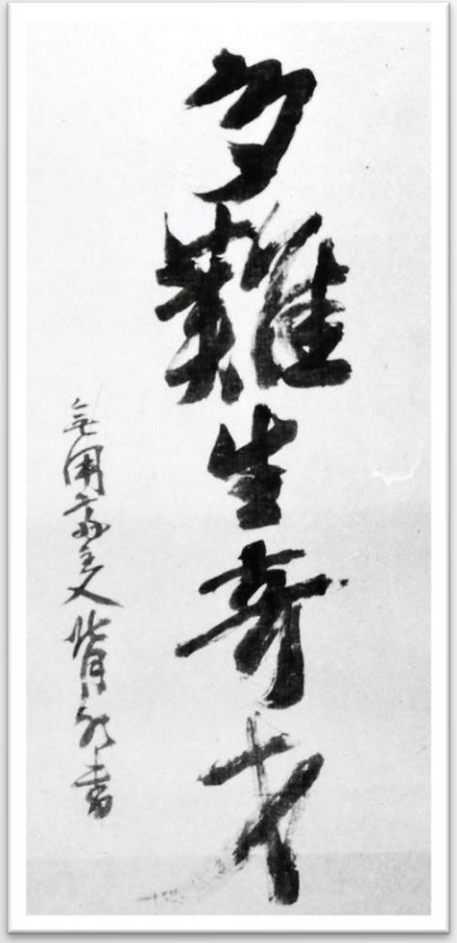
- ②金玉均墓畔有作
- **懐旧纏綿涙欲傾、蒼煙荒草故人塋。**

（昔日をしみじみ思い出して涙を催し、故人の墓は雲霧と雑草の中に沈む。）

- **山河不改当年色、孤客何禁掛剣情。**

（山河の容貌が当年と変わらないが、亡き友人を偲ぶ孤客の心は抑えきれない。）

行動型アジア主義者中村弥六の苦悩と苦闘



- 国府津山荘口占其一

慨世憂時五十年、功名富貴付雲煙。

（時勢に感慨・憂慮して五十年、功名や富貴を雲煙に付く。）

老来抛去青雲志、来領湘南風月権。

（年老いて高遠な志を捨てて、湘南の風月を鑑賞する便宜をもらう。）

- **知る人ぞ知るらむものを難波潟**

よしやあしやは世にまかせてむ